

短期大学教育の質の保証と教学改革

—学修成果の獲得に向けて—

日本私立短期大学協会
私立短大教務担当者研修会

2013.10.21



学長 濱 名 篤

1

構成

1. データからみた学士課程教育の課題
2. 大学改革を成功に導くためには～質的転換
答申から何をどのように始めるか～
3. 関西国際大学の取り組み事例
4. まとめ

2

Q1.本学の学生について下記のような症状が当てはまりますか？

- 1) 学生の基礎学力にばらつきが大きくて困る
- 2) 本学や学部・学科に入学した目的が明確でない学生が目につく
- 3) 学習意欲が十分ではない学生が多い
- 4) 高校までに学習習慣が身につけていない学生が多い
- 5) 就職活動が始まって「動かない」あるいは「動けなくなる」学生が少なくない

3

短大の抱える課題

- 18歳人口・短大志願者の減少
- 定員割れによる財政状況悪化
- 入学者の多様化の進行(学力、学修動機、学修目的、学修習慣)
- 教育に一層手がかかる(入学段階での準備不足)
- 就職率や国家試験・採用試験合格率でのアウトプットで比較されやすい

4

1. データからみた学士課程教育 の課題

5

能動的でも主体的でもない 学生の学びの現状

- 学修成果の社会的通用性に疑問
- 教室内学修はしても、教室外での学びは不十分
- 教員にとっての教育のウェイト拡大、大人数講義は少数に
- 教員は専門重視で、“学位プログラム”とは乖離
- 入学時から準備不足の学生への対応が課題

6

学生の自己評価も低調（大学教育部会資料抜粋）

大学教育の成果に関する学生の自己認識

学生の5～6割が「論理的に文章を書く力」、「人にわかりやすく話す力」、「外国語の力」についての大学の授業の有効性を否定的に捉えている。

○大学の授業は、どのくらい役立っていると思いますか。また自分の実力はどの程度あると思いますか。

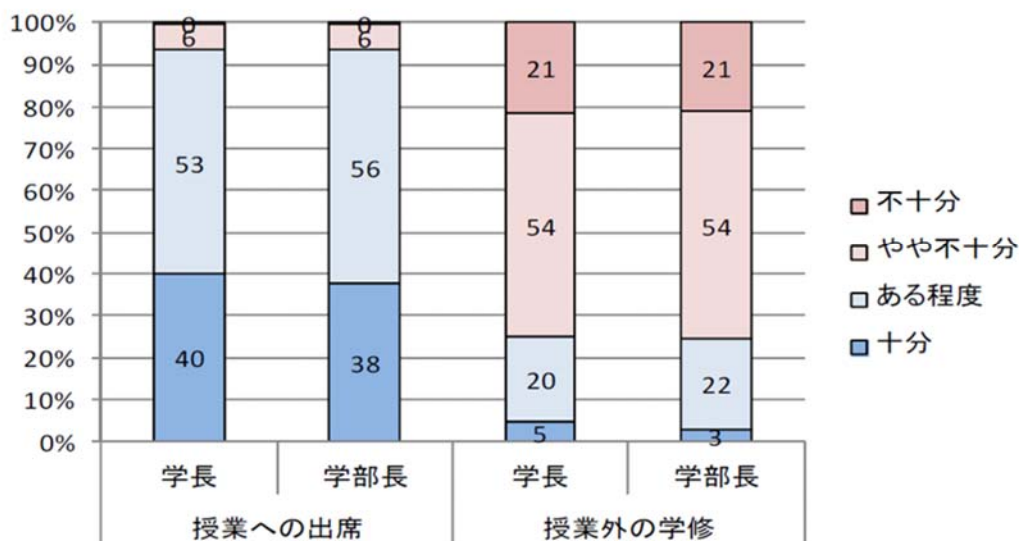
	これまでの授業経験は				自分の実力は			
	役立っていない		役立っている		不十分		十分	
将来の職業に関連する知識や技能	9.5	29.6	42.4	17.2	30.0	50.6	15.4	1.3
専門分野での知識・理解	4.7	23.8	49.5	20.5	25.1	51.3	19.3	1.4
専門分野の基礎となるような理論的理解・知識	4.5	24.0	48.7	20.8	22.3	49.7	22.6	2.0
論理的に文章を書く力	16.6	38.9	32.3	10.6	28.3	42.2	23.2	3.3
人にわかりやすく話す力	20.2	40.5	29.2	8.6	28.5	43.1	21.7	3.8
外国語の力	25.7	36.6	26.5	9.7	44.0	35.7	15.0	2.5
ものごとを分析的・批判的に考える力	9.2	35.2	42.0	11.9	16.5	43.6	31.0	5.9
問題を見つけ、解決方法を考える力	9.9	37.7	40.5	10.2	18.1	47.0	27.6	4.4
幅広い知識、もののみかた	7.6	30.4	44.9	15.6	16.6	44.8	30.3	5.3

出典：東京大学 大学経営・政策研究センター（CRUMP）「全国大学生調査」（2007）

7

授業には出席するが授業外学修は不十分

図表1 学修時間の現状について（％）



出典：文科省 全国学長・学部長調査 2012

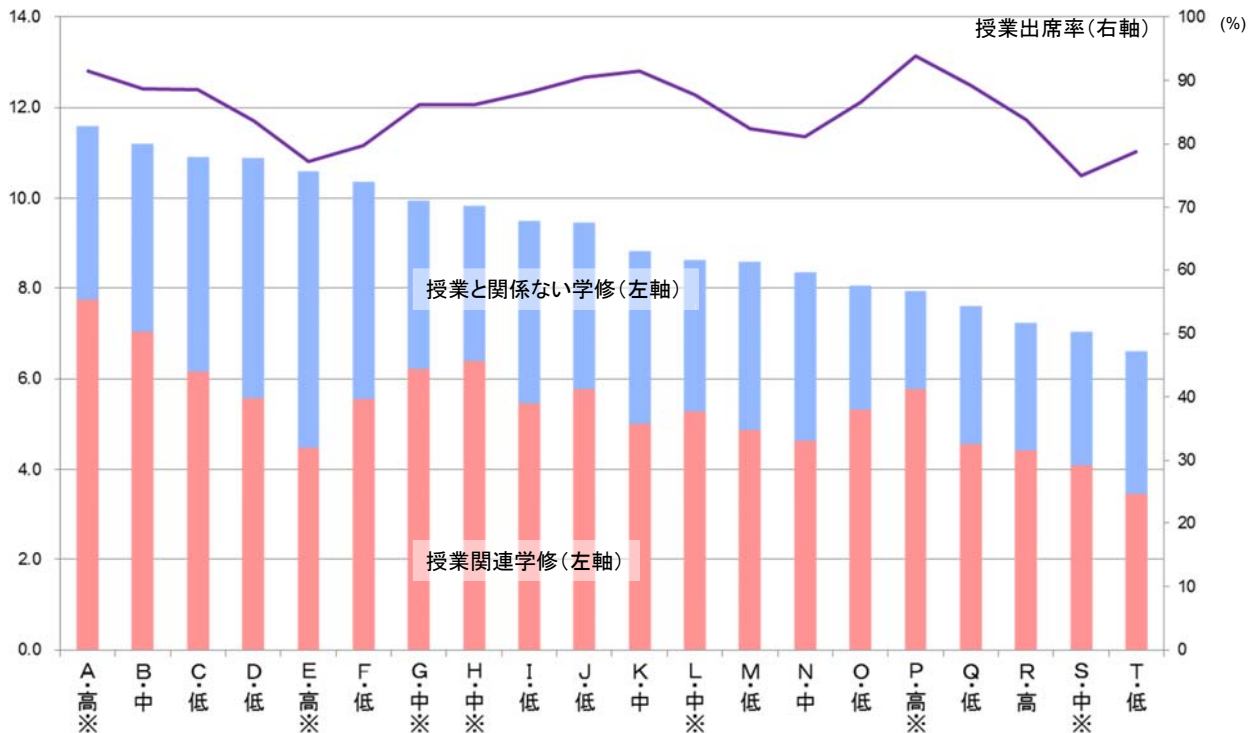
8

偏差値ランクは学修時間と相関が低い (大学教育部会資料抜粋)

授業外学修時間と授業出席率 (大学別平均値)

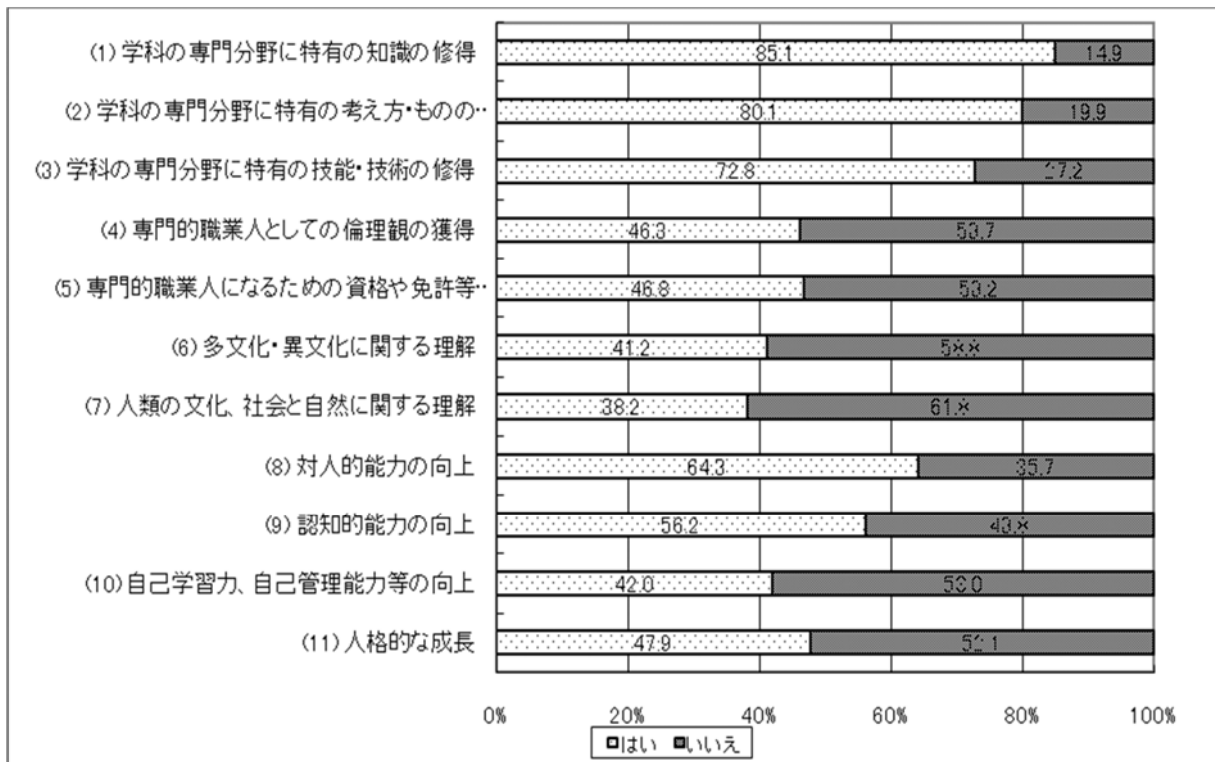
(IDE現代の高等教育 No.515 2009年11月号 「学習行動と大学の個性」 両角亜希子 図表3を基に作成)

「偏差値ランクや設置者による違いをみれば、これらの大学特性と授業外学修時間はあまり関係ないことがわかる。」



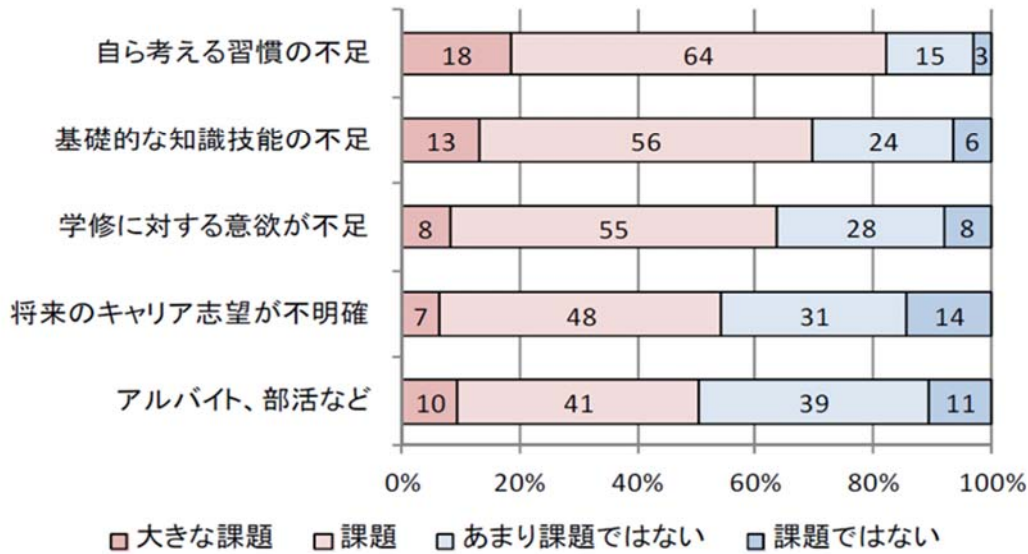
(注)人文社会分野の1年生から3年生までの合計サンプルが180名以上で、1学年のサンプルが50名以上の20大学を取り上げている。
 高中低は偏差値ランクを(高:55以上, 中:45~55, 低:45未満), ※は国公立大学であることを示している。

学科の教育・学習目標の内容は専門偏重



入学までの準備不足が阻害要因？

図表4 学修の阻害要因（学長 %）



出典:文科省 全国
学長調査 2012 11

Q2. 本学の現状を どう思われますか

1) 学生の現状は全国の動向と共通しているか？

①共通している ②全国より悪い ③全国よりは良い

2) 学生の学修時間は十分であるか？

①十分 ②どちらかといえば十分
③どちらかといえば不十分 ④不十分

3) 教員は専門教育に著しく関心が偏っている？

①そう思う ②どちらかといえばそう思う
③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

4) 本学の教育はうまくいっている

①そう思う ②どちらかといえばそう思う
③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

2. 質的転換答申から何をどのように始めるか

13

(1) 中教審の問題意識

- 「学修時間の短さ」は論議の“始点”、到達目標は学修成果の質向上
- 個人にとっても社会にとっても、予測困難な時代（グローバル化、少子高齢化、成熟社会化）
- 答えのない課題を発見し、解決できる主体的な学びができる高等教育への質的転換が急務！
 - 認知的能力（知識・技能を活用して課題解決できる論理的、批判的思考力等）＋ 汎用的能力（チームで行動できる能力、積極性、倫理性等）
- そのために必要な仕組みづくりが必要（教員任せ、学部教授会任せでは、間に合わない？できない？）

14

(2) “学びのイノベーション”の現状とその促進

教育方法としては、

Active Learning、

経験学修重視という方向性

(例: **High Impact Practice**)が注目されているが、学習スキルを含めた初年次教育、キャリア教育の普及は進んだが……

導入状況の(専門分野、大学規模、学力)差は大きい

15

HIP(High Impact Practice)型の教育方法

経験の少ない学生に**インパクトのある、現実社会とのレリバンス(繋がり)を感じさせる教育方法の採用**

- 能動的(active)
- 体験型(hands-on)
- 集団型(collaborative)
- 調査型(inquiry-based)

16

(3) 学生を支援し効果的な学修経験を可能にする「環境」を重視する教育へ

- 初年次セミナーのような1年生向けの授業から始まり、学生たちが協働しながら複数の科目を履修する(担当教員も連携しながら教える)ラーニング・コミュニティ、サービスラーニング、インターシップ、調査研究、などの教室外学修プログラムを含む
“High Impact Practice”の導入が必要
Co-curriculum や Extra-curriculum の重要性
- “Active Learning(能動的な教室内での学修方法)”(グループワーク、発表、ディスカッション、頻繁な答案やレポートのフィードバック)を初年次教育に組み込んだり、2年生の科目まで範囲を拡大したりして、システマティックな教育を展開することが必要
- ラーニングコモンズの導入(後述)
主体的な学修、グループ学修をし易い学修環境づくり+居場所

17

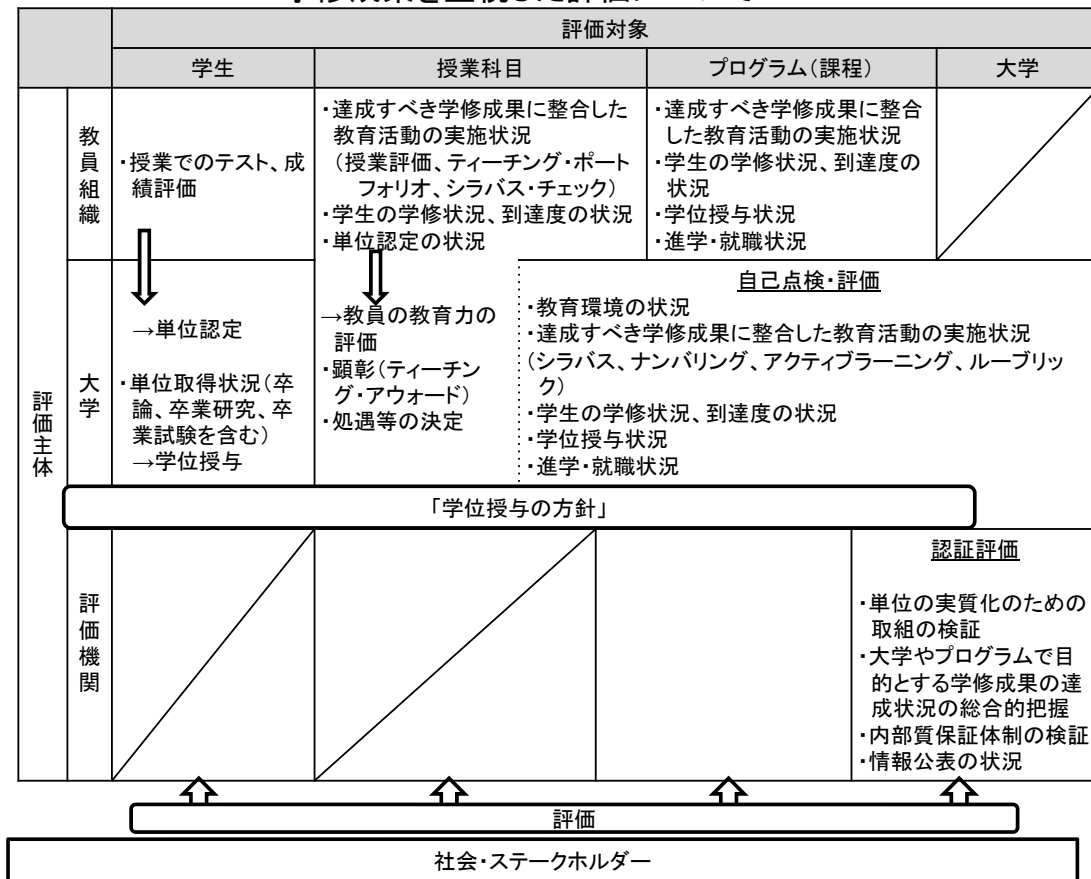
(4) 学修成果のとらえ方

- 大学の「成績」は社会から評価されていない
- 知識暗記型学力への社会からの不信
- 専門知識重視→汎用的能力重視
cf.社会人基礎力、学士力、コンピテンシー
- 学修成果の可視化の必要性
教員任せ？
→ 短大・学科のアセスメントポリシー
直接的:外部テスト、ルーブリック、ポートフォリオetc
間接的: 学生行動調査、学生満足度調査etc

18

学修成果をめぐる評価の位相(答申資料抜粋)

学修成果を重視した評価について



19

(5) 経験の統合化の重要性

学修成果に効果があるとはいえ、学外での「経験学修プログラム」はまだ導入は少ない

→ 個々の教員任せでは進まない？

→ 教育方法の改善を今後も促進していく必要性

→ 教授過程、学習過程の目標設定から体系的、自律的改革の促進

→ キャンパス内外を問わず、多様な経験を学修にいかに関し成長につなげていく環境・機会の重要性

高等教育版“学びのイノベーション”

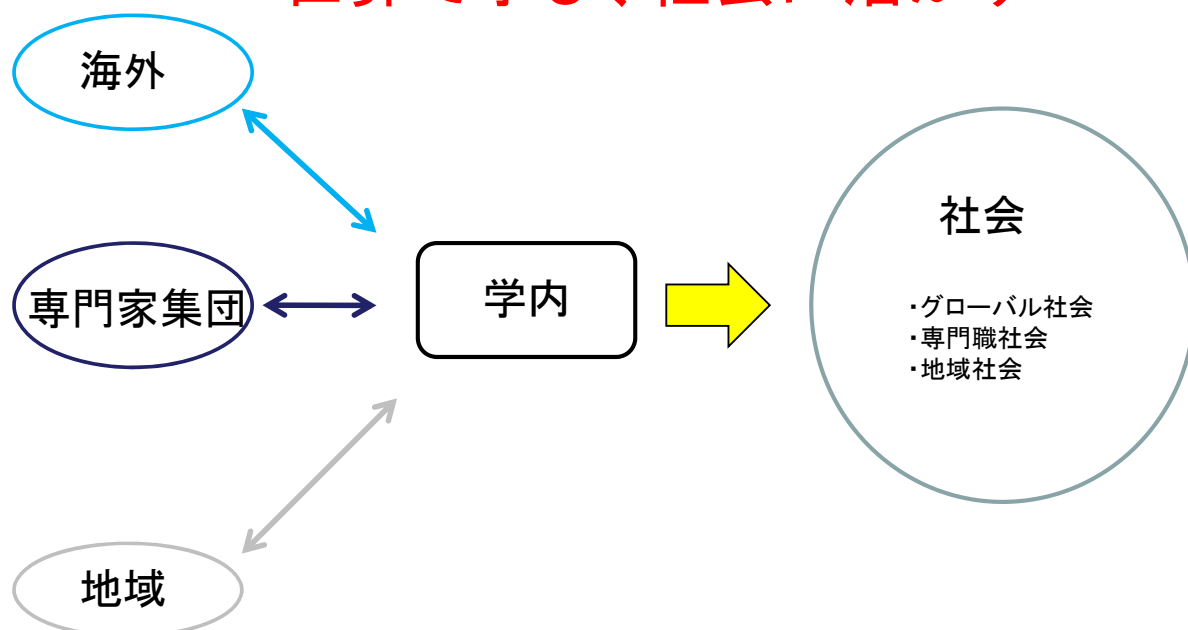
20

3. 関西国際大学の取り組み事例

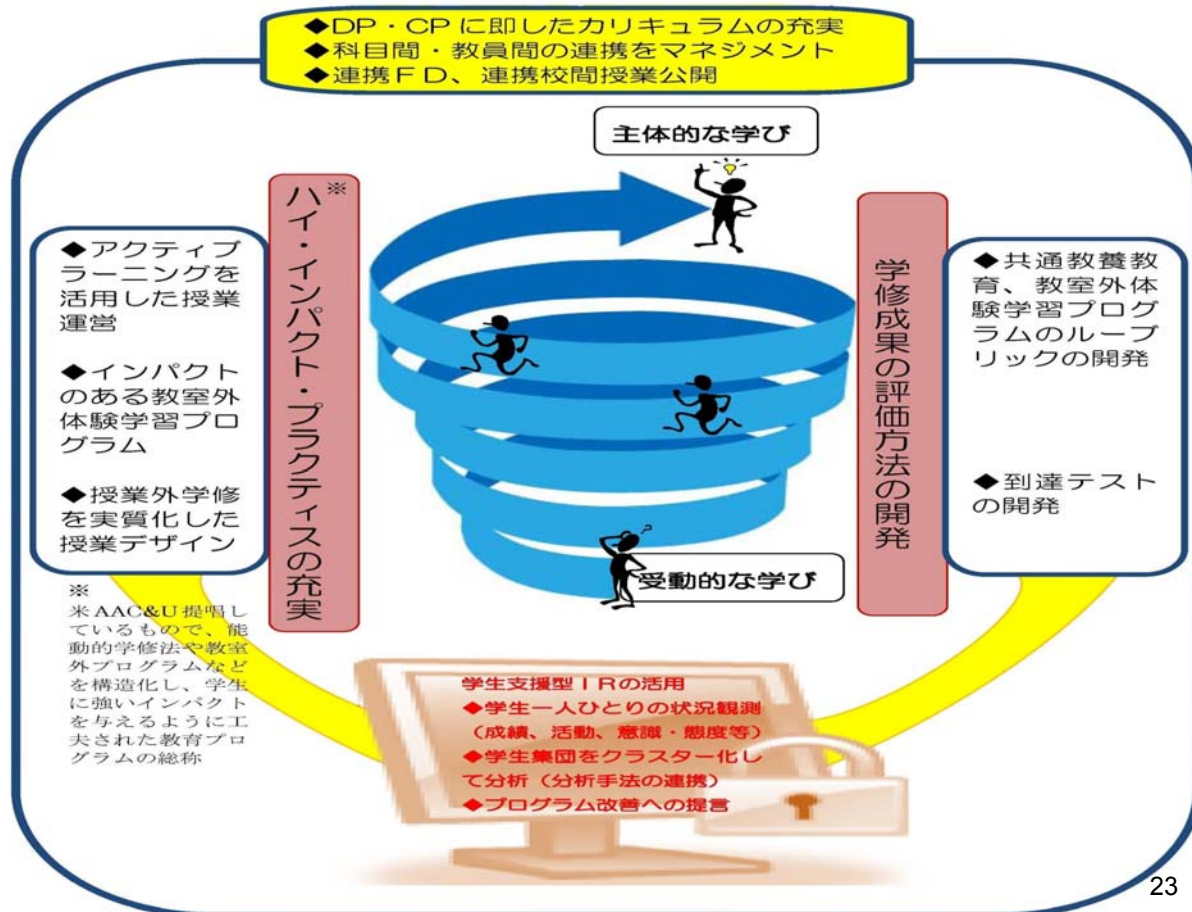
21

関西国際大学の教育の方向性

“世界で学び、社会に活かす”



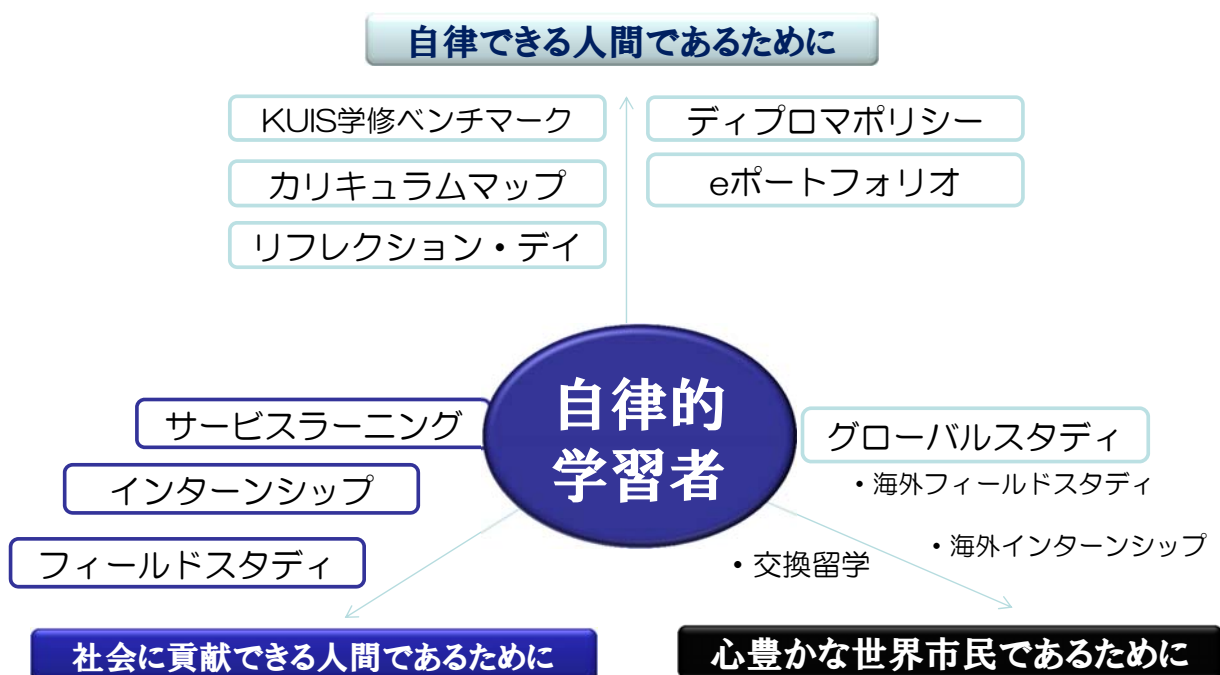
22



23

平成24年度「文科省・大学間連携共同教育推進事業」に採択

教育理念を達成するための学びのツール



24

サービスラーニング

◆サービスラーニングとは？

大学教育と社会貢献とを融合させた活動であり、教室の知と社会実践をリンクさせる教育方法。専門的分野と関連する社会参加活動を行い、自らの生き方につながる学びを獲得することを目的にした体験学修。

◆各学科のサービスラーニングプログラム

・経営学科：高原系観光地として、売り出している、“神鍋高原ジオパーク”について、調査・サービス活動を行い、提言をまとめる。

・人間心理学科：三木市高齢者大学との交流し、地域の課題を共に考える。

・教育福祉学科：尼崎市の保育所・幼稚園・小学校に出向き、課題の発見、改善の提言を行う。

・英語教育学科：小学1・2年生を対象に、「小学生英語教室」を開いている。



25

自律的学習のための支援

自律的学習のための支援

学習支援

学習支援センター

欠席調査

センターオフィスアワー

日本語運用能力テスト

ラーニングcommons

適応支援

フレッシュマンウィーク

学習技術

初年次セミナー

メンター制度

適応調査

ウォーミングアップ学習

26

関西国際大学でのポートフォリオの考え方

ポートフォリオ=学修成果の統合ツール

自己分析の結果やレポートをはじめとする、学修成果を示す様々な判断・評価材料(evidence)をまとめたファイル。学生自身が学修到達度を評価するとともに、目標を管理するツールとして役立つ。



<E-ポートフォリオ>



27

4. ルーブリックを活用した評価

Q3.成績評価について

- 1)短大での成績評価は社会で通用している
- ①そう思う ②どちらかといえばそう思う
③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない
- 2)学生は成績評価を信頼している
- ①そう思う ②どちらかといえばそう思う
③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない
- 3)ご自分の成績のつけ方に自信がある
- ①そう思う ②どちらかといえばそう思う
③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

29

面接依存型選考の特性

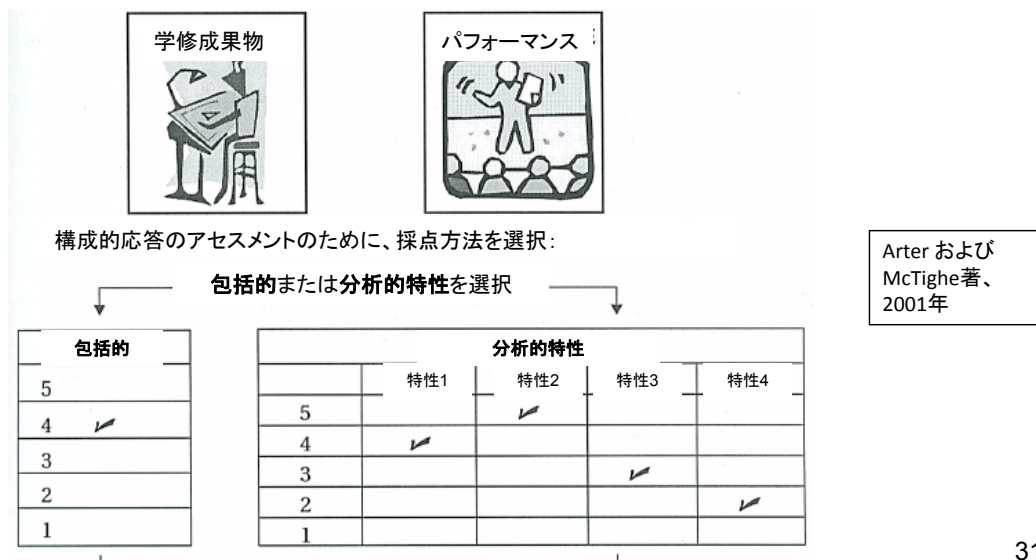
○ 新卒者の選考手法

	用いた方法 (複数回答)	最も重要視 した方法
面接(グループを含む)	91.8%	81.4%
適性検査	47.0%	4.1%
グループディスカッション、 グループワーク	10.7%	2.4%
大学名	10.8%	2.2%
筆記試験	46.7%	2.2%
推薦	12.7%	2.1%
エントリーシートや履歴書 などの書類	72.7%	0.9%
大学での専攻	23.3%	0.9%
大学での成績	43.2%	0.6%
縁故・紹介	15.5%	0.5%

○ 面接による選考の特性

- ① コミュニケーションスタイルが強調される
- ② 短期的に活躍できそうな人を選びやすい
- ③ 第一印象で決まる
- ④ 多く練習した人がよく見える

ルーブリックとは？



31

なぜグレード評価のルーブリック が必要なのか？



32

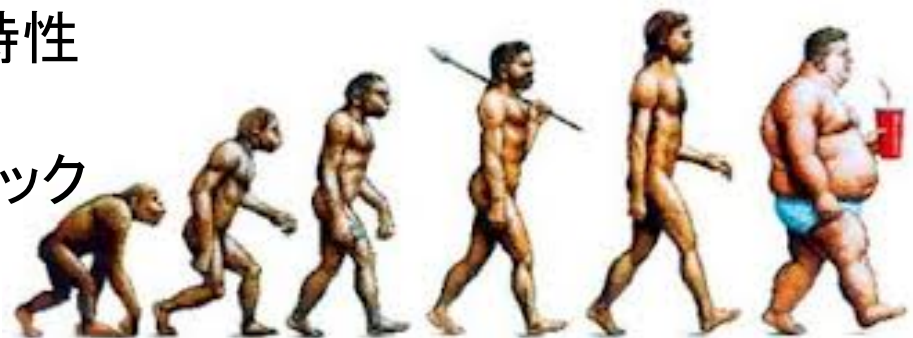
評価者は、彼らが使用していると考えている
グレード評価基準を本当に使用しているのか？

文法 - 良 アイデア - 少	文法 - 良 アイデア - 多	文法 - 劣 アイデア - 少	文法 - 劣 アイデア - 多	通常行う グレード評価
文法 - 良 アイデア - 少	文法 - 良 アイデア - 多	文法 - 劣 アイデア - 少	文法 - 劣 アイデア - 多	文法だけに対 するグレード 評価
文法 - 良 アイデア - 少	文法 - 良 アイデア - 多	文法 - 劣 アイデア - 少	文法 - 劣 アイデア - 多	アイデアだけ に対するグレード 評価

33

評価システムの進化

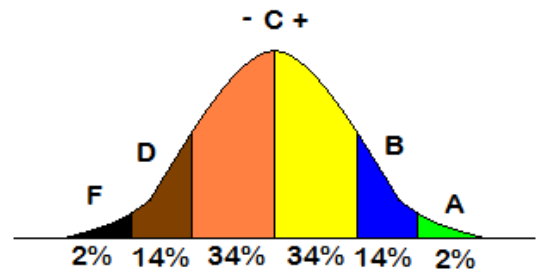
1. 包括的評価尺度
2. 分析的評価尺度
3. 修辭的特性
4. ルーブリック



34

包括的(総合印象)評価尺度

- 優秀
- 非常に良い
- 良い
- 普通
- 悪い



グレードの釣鐘曲線



分析的評価尺度

外国語会話のアセスメント

基準	1=初心者	2=初級	3=中級	4=上級	5=ネイティブレベル
発音					
イントネーション					
文法					
ボキャブラリー					
流暢さ					
意思の疎通					

基本的特性スケール

物理的変化で科学物質を識別する実験授業に関するレポート

評価する基本的特性：観察したことを十分な詳細を交えて報告

レベル1: 観察は、実験後または実験中のみ実施。実験開始前は観察なし

レベル2: 観察により、実験中に熱、光、または電気が加えられたかどうか分かる

レベル3: 実験の前後および最中に少なくとも1件の定量的観察

レベル4: 観察では、質量、色、臭い、温度、透明か濁っているか（液体のみ）の項目が網羅される。

37

なぜルーブリックが必要なのか？

1. 評価やグレード評価における一貫性
2. 指導する内容のテスト
3. コース目標や指導内容の再考
4. FDおよび協調性のある学風
5. 学生の学修
 - a. 学修タスクの分析
 - b. 成功の機会
 - c. 自己評価
6. プログラム全体の評価
7. 学風の改革

38

なぜルーブリックが必要なのか？

- ルーブリックは、指導目標とアセスメントの合致を保証する。
 - 繰り返しプロセス：
目標 ↔ 評価基準
 - 包括的ルーブリックは、コース目標を反映する
 - 特定課題ルーブリックは、特定の学生のプロジェクトの目標を反映する

39

なぜルーブリックが必要なのか？

- ライティングプロセスのルーブリックが指導に再び焦点をあてる



- コース目標に再び焦点をあてる
 - **最も重要な指導内容は何か？**
- 各プロジェクトの目的に再び焦点をあてる
 - **なぜ学生にこのタスクをやらせるのか？**
- 教室での指導に再び焦点をあてる
 - **アセスメントを行う内容を本当に指導しているのか？**

40

関西国際大学版 コモンルーブリック

- 海外先進事例の参照
 - AAC&U(全米大学協会)等への視察
 - ルーブリック開発に向けた着想
- 学内での開発
 - 本学の課題を念頭に当初から全学導入を意図
 - 学士課程教育の多くの科目で共通して求められる基本的なスキルに焦点化
 1. ライティング
 2. プレゼンテーション
 3. リサーチ
 4. 多様性理解
 - 主にAAC&UのThe VALUE Rubricsを参照して開発

41

関西国際大学 コモンルーブリック(リサーチ) 1年生春学期～2年生春学期 (下位学年用)

	3	2	1	0
テーマのたて方 (調査目的の設定)	実現可能なテーマが設定されており、それについての仮説や調査項目が示されている。	実現可能なテーマが設定されており、一般的な仮説や調査項目がたてられている。	テーマは設定されているが、仮説や調査項目が分かりにくい。	テーマがはっきりしない。調査項目、および仮説が示されていない。
これまでに明らかにされている知見の活用	複数の情報源からこれまでに明らかになった考え方や研究内容を示し整理している。	複数の情報源から、これまでに明らかになった考え方や研究内容を、部分的であっても示している。	限られた情報源からであるが、これまでに明らかになった考え方や研究内容を、何かしら紹介しているが、テーマとの関係が乏しい。	これまでの先行研究について示されていない。
研究方法と分析の視点	目的とテーマに沿った研究方法を用い、分析の視点を示している。	研究方法と分析の視点について、必要なポイントを捉えている。	研究方法と分析の視点について示されているが、必要なポイントが捉えられていない。	研究方法と分析の視点が示されていない。
分析	リサーチで得られた情報をまとめ、類似点・相違点・パターンなど何らかの法則性を検討している。	リサーチで得られた情報をまとめることができている。	リサーチで得られた情報を列挙しているが、まとめることができていない。	リサーチした内容をまとめられていない。
結論	リサーチから明らかになったことについて記述し、これまでに学んだ考え方や研究内容とある程度関連付けて説明できている。	リサーチから明らかになったことについて記述し、これまでに学んだ考え方や研究内容を用いて説明しようとしている。	リサーチから得られた情報についての記述はできているが、これまでに学んだ考え方や研究内容を用いた説明はできていない。	リサーチから得られた情報の記述もできておらず、これまでに学んだ考え方や研究内容も用いられていない。

42

包括的ルーブリックの作成手順

- 1) 以前の学生の課題の作業サンプルを持っている場合は、それらを4段階の評価グループに分類する
- 2) 質の評価レベルを判定するために使用する最も重要な基準のリストを作成する
- 3) ディスクリプタを作成する — 各基準が各レベルでどのように適用されるかを示す
- 4) 品質ラベルを貼る — 例
初心者レベル／見習いレベル／熟達レベル／専門家レベル または
改善の余地あり／満足／基準を満たす／模範的
- 5) 学生の作業結果サンプルでルーブリックをテスト — 上手く機能するかどうかを確認
- 6) 学生に次のアサイメントを与える前に学生とルーブリックを共有する

43

分析的ルーブリックの作成手順

- 1) 目標について熟考する — アサイメントを行うことが学生にとってなぜ重要なのか？ 学生が何を学ぶことを望んでいるのか？
- 2) タスクを主要な構成要素別に分析調査する。チェックリストを作成する
- 3) 指導後に各要素で学生に達成して欲しい基準を明確にする
- 4) 各構成要素において、学生が卓越性を実証する方法を説明する。
- 5) 能力開発の過程(基準の成績に満たない段階)で各構成要素における学生の成績を明確にする
- 6) 学生の作業結果サンプルでルーブリックをテスト — 上手く機能するかどうかを確認
- 7) 学生に次のアサイメントを与える前に学生とルーブリックを共有する

44

演習: 今までに構築した原則を適用する。
2人1組で作業する。

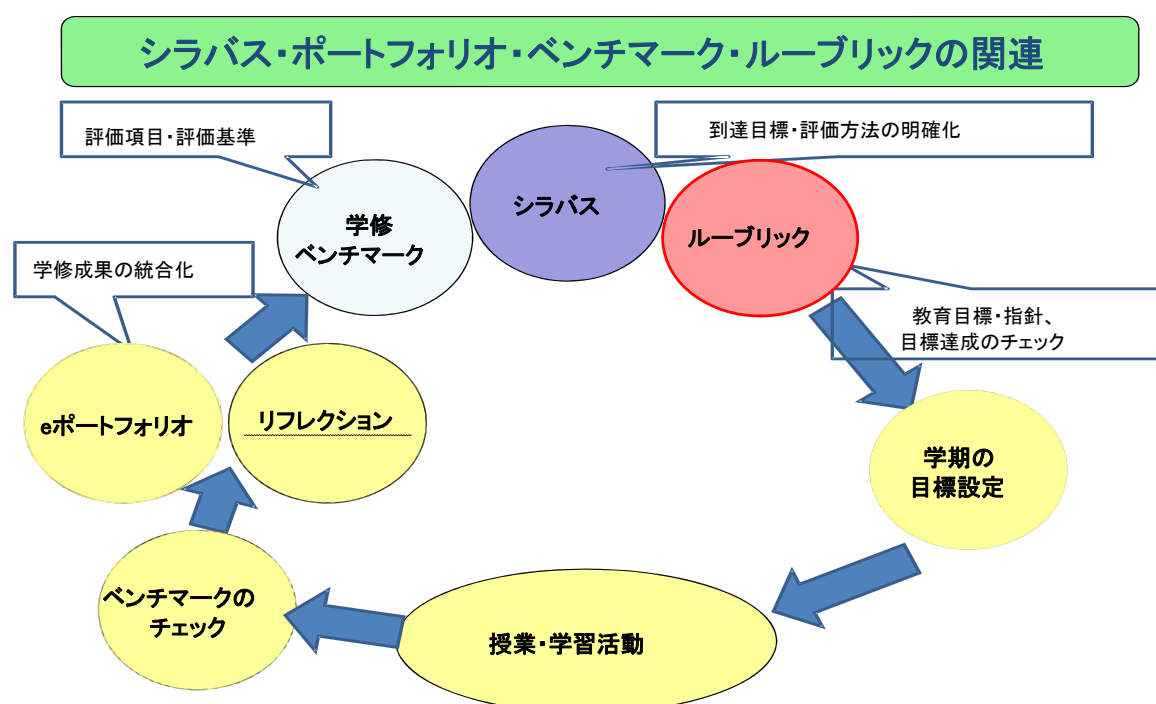
A) 学生のアサインメントとして与えることの多いプロジェクトのために、特定課題ルーブリックを作成する

または



B) 料理のクラスを指導していると仮定する。学生に2人1組でカステラを作る課題を与える。そこで、カステラ作りの習熟度のアセスメントを実施するためのルーブリックを作成する。

関西国際大学における学びと成長の可視化



5. まとめ

47

(1)「能動的に学ぶ」とは

- **能動的な学び**は、**組織的な“仕組み”づくりから**始められるHIPの何を、どのように“仕組み”に取り込んでいくか
教室内での組織的なアクティブラーニングの導入
- 西洋語の**University** の意味をもう一度悟ろう。
ユニバーシティもユニバシタスも、その1つの意味が「**1つの組合(共同体)**」。多くの分野があって、その分野全体に**1つの方針を与える、1つの体系を作る**というのが1つの意味
Cf.「ユニバシタス・ストウディオルム(多くの分野を体系的に学ぶところ)」、
教養教育も含め。

もう一つの意味は、**人間味のある暖かな味のある共同体の中で学び、教育を受けて成長する**、という意味

アメリカの大学生は能動的に学修しているが、彼らがすべて主体的に学修しているか？(川嶋 2012. 12. 21)

48

(2) 主体的な学びとは

主体的な学びは個々の学生の“気づき”から

- 高大接続の改善による目的・動機・学力の強化
- 学びへのワクワク・ドキドキ感を経験させるHIP
- 振り返りreflectionを通じた“気づき”

学びの成果の“可視化”

学びの記録

評価の観点・基準、feedbackの重要性

“振り返り”の方法はPDCAだけではない

ポジティブ志向で、あり得る最高の状況づくりを共有

ex.AI(アプリシエイティブ・インクワイアリー):

問いや探求(インクワイアリー)により、個人の価値や強み、組織全体の真価を発見し認め(アプリシエイティブ)、それらの価値の可能性を最大限に活かした、最も効果的で能力を高く発揮する仕組みを生み出すプロセス

自らが学びたいという目的・動機をもって、自らの意志で学びにチャレンジする～学びの方法論や学生支援はそれらを後押し～

49

(3) 組織的な学生支援とコミュニケーション

- 1) “健康診断”による教職員での現状認識の共有
- 2) 全学的な目標設定(DP,CP,アセスメントP)
- 3) 学部・学科単位の目標設定
- 4) 目標を達成するための教育内容＋教育方法
- 5) 目標達成を測定するアセスメント方針・尺度の設定
- 6) 学生に対する目標・方法・評価の説明・可視化
- 7) 学修過程における学生のモニタリングと成長を自覚してもらうための“対話”と認識共有
- 8) 学生自身が成長・課題の自覚と自信

50

参考資料

中央教育審議会答申「新たな未来を築くための学士課程教育の質的転換に向けて」2012年8月

日本私立大学附置私学高等教育研究所

「学士課程教育の改革状況と現状認識に関する調査」調査期間:2009年9月～12月. 調査対象:全国2000学科の学科長(研究代表者 濱名 篤)

角方正幸「企業の人材評価と大学の教育評価」日本高等教育学会シンポジウム資料 2013. 5.26

ヨゼフ・ピタウ「1980年代の大学について」日本私学振興財団職員研修会講演録、1980

Terrel L.Rhodes(Eds) Assessing Outcomes and Improving Achievement – Tips and Tools for Using Rubrics AAC&U ,2009

Don. Rubin「高等教育における学習成果改善のためのルーブリック」関西国際大学FD資料、2013. 3. 26